衛生管理者免許試験 公表問題

労働衛生（有害業務）

① 空気中の有害物質

② 粉じんによる健康障害

③ 金属による健康障害

④ 有機溶剤による健康障害

⑤ 化学物質等よる健康障害

⑥ 騒音による健康障害

⑦ 電離放射線による健康障害

⑧ 有害要因による健康障害

⑨ 化学物質のリスクアセスメント

⑩ 労働衛生対策

⑪ 作業環境測定

⑫ 局所排気装置

⑬ 労働衛生保護具

⑭ 特殊健康診断

新潟ウェルネス
一般社団法人 新潟県労働衛生医学協会

【令和 6 年 10 月】

【 問１８ 】　粉じんによる健康障害に関する次の記述のうち、**誤っているもの**はどれか。

（1）じん肺は、粉じんを吸入することによって肺に生じた線維増殖性変化を主体とする疾病で、けい肺、石綿肺などがある。

（2）じん肺がある程度進行すると、粉じんへのばく露を中止しても肺の線維化が進行する。

（3）けい肺は、鉄、アルミニウムなどの金属粉じんを吸入することによって発症するじん肺である。

（4）石綿肺では、胸膜の肥厚（プラーク）、胸膜の石灰化などがみられる。

（5）木材の粉じんを吸入することによって、ぜんそくを起こすことがある。

▸▸解説◂◂

（1）（2）（4）（5）正しい

（3）**誤り**：「鉄、アルミニウムなどの金属粉じん」⇒「鉱物性粉じんに含まれる遊離けい酸（SiO_2）の粉じん」。

＊解答＊　（3）

【令和 4 年 10 月】

【 問１３ 】　粉じん（ヒュームを含む。）による健康障害に関する次の記述のうち、**誤っているもの**はどれか。

（1）じん肺は、粉じんを吸入することによって肺に生じた炎症性病変を主体とする疾病で、その種類には、けい肺、間質性肺炎、慢性閉塞性肺疾患（ＣＯＰＤ）などがある。

（2）じん肺は、肺結核のほか、続発性気管支炎、続発性気胸、原発性肺がんなどを合併することがある。

（3）アルミニウムやその化合物によってじん肺を起こすことがある。

（4）溶接工肺は、溶接の際に発生する酸化鉄ヒュームのばく露によって発症するじん肺である。

（5）炭素を含む粉じんは、じん肺を起こすことがある。

▸▸解説◂◂

（1）**誤り**：「炎症性病変」⇒「線維増殖性変化」。じん肺は、粉じんを吸入することで肺の組織が線維化（線維増殖性変化）する疾病である。

（2）（3）（4）（5）正しい

＊解答＊　（1）

【令和４年４月】

【 問１５ 】　粉じん（ヒュームを含む。）による健康障害に関する次の記述のうち、**誤っているもの**はどれか。

（１）じん肺は、粉じんを吸入することによって肺に生じた線維増殖性変化を主体とする疾病である。

（２）鉱物性粉じんに含まれる遊離けい酸（SiO_2）は、石灰化を伴う胸膜肥厚や胸膜中皮腫を生じさせるという特徴がある。

（３）じん肺は、肺結核のほか、続発性気管支炎、続発性気胸、原発性肺がんなどを合併することがある。

（４）溶接工肺は、溶接の際に発生する酸化鉄ヒュームのばく露によって発症するじん肺である。

（５）アルミニウムやその化合物によるじん肺は、アルミニウム肺と呼ばれている。

▸▸解説◂◂

（１）（３）（４）（５）正しい

（２）**誤り**：遊離けい酸（SiO_2）を吸入することによって生じるじん肺は、けい肺である。石灰化を伴う胸膜肥厚や胸膜中皮腫を生じさせるのは石綿である。

＊解答＊　（２）

【令和３年４月】

【 問１６ 】　じん肺に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

（１）じん肺は、粉じんを吸入することによって肺に生じた炎症性病変を主体とする疾病で、その種類には、けい肺、間質性肺炎、慢性閉塞性肺疾患（COPD）などがある。

（２）じん肺は、続発性気管支炎、肺結核などを合併することがある。

（３）鉱物性粉じんに含まれる遊離けい酸（SiO_2）は、石灰化を伴う胸膜肥厚や胸膜中皮腫を生じさせるという特徴がある。

（４）じん肺の有効な治療方法は、既に確立されている。

（５）じん肺がある程度進行しても、粉じんへのばく露を中止すれば、症状が更に進行することはない。

▸▸解説◂◂

（１）誤り：「肺に生じた炎症性病変を主体と」⇒「肺の組織が線維化（線維増殖性変化）」、「間質性肺炎、慢性閉塞性肺疾患（COPD）」⇒ 「石綿肺、炭素肺、アルミニウム肺、溶接工肺」。じん肺は、粉じんを吸入することで肺の組織が線維化（線維増殖性変化）する疾患である。

（２）正しい：じん肺の合併症には、肺結核、結核性胸膜炎、続発性気管支炎、続発性気管支拡張症、続発性気胸、原発性肺がんがある。

（３）誤り：「鉱物性粉じんに含まれる遊離けい酸（SiO_2）」⇒「石綿繊維の粉じん」。石灰化を伴う胸膜肥厚や胸膜中皮腫を生じさせるのは石綿である。遊離けい酸（SiO_2）を吸入することによって生じるじん肺は、けい肺である。

（４）誤り：じん肺は、いったん起こると、現在の医学では治すことができず、粉じんを吸い続けると病状は次第に進行する。

（５）誤り：じん肺がある程度進行すると、粉じんへのばく露を中止しても肺の線維化が進行する性質がある。

＊解答＊　（２）

【令和２年 10 月】

【 問１４ 】　粉じんによる健康障害に関する次の記述のうち、**誤っているもの**はどれか。

（１）じん肺は、粉じんを吸入することによって肺に生じた線維増殖性変化を主体とする疾病である。

（２）じん肺の自覚症状は、初期にはあまりみられないが、進行すると咳、痰、せきたん呼吸困難などがみられる。

（３）じん肺の合併症には、間質性肺炎、慢性閉塞性肺疾患（ＣＯＰＤ）などがある。

（４）石綿粉じんは、肺がん、胸膜中皮腫などの重篤な疾病を起こすおそれがある。

（５）米杉、ラワンなどの木材粉じんは、ぜんそくを起こすことがある。

▸▸解説◂◂

（１）（２）（４）（５）正しい

（３）**誤り**：「間質性肺炎、慢性閉塞性肺疾患（ＣＯＰＤ）」⇒「肺結核、続発性気管支炎、続発性気胸、原発性肺がん」などがある。

＊解答＊　（３）

【令和２年４月】

【 問１６ 】　じん肺に関する次の記述のうち、**誤っているもの**はどれか。

（１）じん肺は、粉じんを吸入することによって肺に生じた炎症性病変を主体とする疾病で、けい肺、間質性肺炎などがある。

（２）けい肺は、遊離けい酸の粉じんを吸入することにより起こるじん肺であり、その自覚症状は、進行してから、咳や痰が始まり、やがて呼吸困難に陥る。

（３）じん肺は、続発性気管支炎、肺結核などを合併することがある。

（４）アルミニウムやその化合物によるじん肺をアルミニウム肺という。

（５）じん肺がある程度進行すると、粉じんへのばく露を中止しても肺の病変が進行する。

▸▸解説◂◂

（１）**誤り**：「炎症性病変」⇒「線維増殖性変化」。

（２）（３）（４）（５）正しい

＊解答＊　（１）

【平成 31 年 4 月】

【 問１５ 】　粉じんによる健康障害に関する次の記述のうち、**誤っているもの**はどれか。

（1）じん肺は、粉じんを吸入することによって肺に生じた線維増殖性変化を主体とする疾病である。

（2）じん肺は、ある程度進行すると、粉じんへのばく露を中止しても肺に生じた病変は治らず、更に進行することがある。

（3）鉱物性粉じんに含まれる遊離けい酸は、石灰化を伴う胸膜の肥厚である胸膜中皮腫を生じさせるという特徴がある。

（4）アルミニウムを含む粉じんや炭素を含む粉じんも、じん肺を起こすことがある。

（5）じん肺は、続発性気管支炎や肺結核を合併することがある。

▸▸解説◂◂

（1）（2）（4）（5）正しい

（3）**誤り**：石灰化を伴う胸膜肥厚や胸膜中皮腫を生じさせるのは石綿である。遊離けい酸を吸入することによって生じるじん肺は、けい肺。

＊解答＊　（3）

【平成 30 年 10 月】

【 問１５ 】　粉じん（ヒュームを含む。）による健康障害に関する次の記述のうち、**誤っているもの**はどれか。

（1）じん肺は、粉じんを吸入することによって肺に生じた線維増殖性変化を主体とする疾病である。

（2）じん肺は、肺結核のほか、続発性気管支炎、続発性気胸、原発性肺がんなどを合併することがある。

（3）鉱物性粉じんに含まれる遊離けい酸（SiO_2）は、石灰化を伴う胸膜肥厚や胸膜中皮腫を生じさせるという特徴がある。

（4）溶接工肺は、溶接に際して発生する酸化鉄ヒュームのばく露によって発症するじん肺である。

（5）炭素を含む粉じんもじん肺を起こすことがある。

▸▸解説◂◂

（1）（2）（4）（5）正しい

（3）**誤り**：「石灰化を伴う胸膜肥厚や胸膜中皮腫」⇒「けい肺」。胸膜肥厚や中皮腫は石綿による健康障害。

＊解答＊　（3）